

菊細工番付再々考

平野 恵

Reconsider Ranking of Chrysanthemum Crafts

HIRANO Kei

はじめに

① 菊細工の内容・植木屋名・地域一覧

② 菊細工番付から判明する事実

- (1) 天保十五年靈感院の菊細工
- (2) 墨刷りと色刷り
- (3) 追刻された菊細工番付「菊枝折ちか道のぼん付」
- (4) 弘化二年『藤岡屋日記』に登場する番付「きくのことふき」
- (5) 向島の菊細工「菊の寿力競」「向島菊の番附道順」

(6) 組み物「染井駒込巢鴨新板改正造菊番附」

(7) 弘化三年「菊のおだ巻」

(8) 異板「きくのかき」

③ 花壇から植木鉢へ

- (1) 花壇植え
 - (2) 鉢植
- おわりに

【論文要旨】

本研究は、既出論文「菊細工番付再考」(二〇〇四年発表)に続く論文である。本稿では、新しく判明した資料を元に、新知見を加えた。

菊細工とは一般に、鶴や象などの鳥獣、富士山や二見が浦などの風景、宝舟や唐子などの縁起物、汐汲や蟹などの物語を、小さな菊で形作った見世物のことをいう。「菊の作り物」「作り菊」などとも呼ばれ、「菊人形」の前身にあたる。菊細工は、はじめ文化・文政期に流行し、一度下火になった。天保十五年(一八四四)と翌弘化二年

(一八四五)に爆発的に流行し、幕末・明治期まで存続した。本研究ではこれらのうち、天保十五年から嘉永元年(一八四八)までを対象とした。

今回の検討により、以下の二点が判明した。(一)菊細工の内容を検討することによって、花壇から植木鉢へと過渡期を迎えている菊栽培の様相が明らかになった。(二)同じ番付と考えられたものの異版を複数発見した。

【キーワード】 菊細工、番付、植木屋、鉢植、花壇植え、出版文化、園芸文化